今週の
倫理

2026.5.9～5.15

5月のテーマ　｜　リーダーシップ

1489号

変化の時代に求められる
人を中心に据えたリーダーシップ

え・城谷俊也

昭和、平成、令和と時代が移り変わり、技術の進歩などを背景として、社会や経営環境、働き方は大きく変化してきました。

しかし、時代が変わろうとも、人々の悩みの多くは今なお人間関係に起因しています。だからこそ、「人としての在り方」を示す倫理や道徳は、現代においても重要な意味を持っています。「企業は人なり」という言葉が示す通り、組織は人によって成り立っており、経営者の姿勢や価値観は組織文化を大きく左右します。変化の激しい時代だからこそ、知識や技術に加え、人を大切にする人間力に根ざしたリーダーシップが、経営者には強く求められているのです。

このようなリーダーシップを体現する経営者の一人がY氏です。岡山で菓子店を営む家に生まれ、跡取りとして育てられたY氏は、二十九歳の時、父が大病を患ったことを契機に、家業存続の大きな危機に直面しました。父に代わって事業を率いましたが、資金繰りに追われ、効率や合理性を重んじる経営の中で、現場で働く職人や社員の声に十分に耳を傾けることができませんでした。その結果、社員や取引先からの信頼を失い、五十年以上続いた家業を廃業させてしまいました。

その後、伯父が設立した認可保育園の理事長を父から引き継いでいたこともあり、Y氏は年間行事などに顔を出す機会を持つようになりました。そうした場で、子供たちの屈託のない笑顔や、やりがいをもっていきいきと働く保育士の姿に触れる中で、次第に大きな生きがいと、保育に携わる使命感を見出していきました。

こうした想いを背景に、「自律性を大切にする保育」という方針を掲げ、平成九年には社会福祉法人へと移行します。地域に根差した丁寧な園運営が評価され、活動の場は県外へも広がり、現在では全国各地で八十箇所におよぶ保育施設や障がい児支援、放課後児童クラブを運営しています。

加えて、「良い国づくりに貢献したい」という想いから、医療・教育・福祉を横断した「隔たりのない街づくり」を目指し、小児科医である長男と連携しながら複数の法人の特性を生かした仕組みを行政へ提案するなど、分野を越えた挑戦を続けています。

Y氏が率いる社会福祉法人の経営理念は「Home（ホーム）」です。「離れていても、いつも思い出す、心の帰る場所でありたい」という想いを掲げ、子供たちだけでなく、職員や保護者を含め、関わるすべての人の拠り所となることを目指しています。

かつて「日本一の菓子屋」という夢に挫折したY氏は、周囲の支えを力に「人を中心に据える経営」へと転換しました。その結果、「社会福祉法人の保育園」として日本一の事業規模にまで成長を続けています。

仕事の本来の目的は、世のため人のために尽くすことです。人を想い行動する事業は、多くの共感と支援を集め、長く社会に必要とされます。Y氏の歩みは、変化の時代における人を生かすリーダーシップの在り方を示しているといえるでしょう。